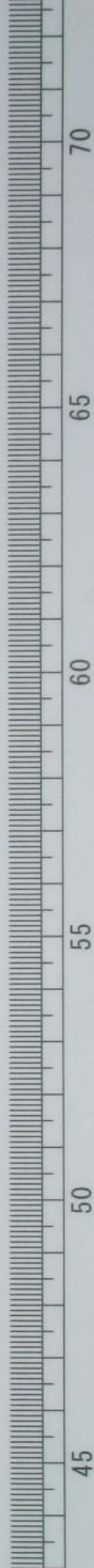




病家須知

一名病家心得草

中武
25
2



武門
分
卷



病宗須知卷之二

目錄

- 食物能毒の心得一
- 獸肉を禁むる理二
- 病人の食三
- 病入るる食四
- 食滞のゆゑ五
- 飲食の慎み六
- 其智長ざる理七
- 體よるる氣及大小便八
- 食治れたるまじ九
- 食物禁忌十
- 病を飲食十一
- 瘰癧病十二
- 穀肉を避て治十三
- 三慾を治す十四
- 契慣たる飲食を遠け病を治十五
- 三慾を治す十六
- 論及六方の藥劑十七
- 修身攝生の道十八
- 畫圖を以て其意を諭十九
- 留飲二十
- 白米のむ二十一
- 脚氣二十二
- 食養生二十三
- 酒を用て害ある病二十四
- 産後の昏眩二十五
- 熱醋二十六

目錄

一

鼻1沃で治するふとサフ醋の條下 ○鯉魚湯の煎法サニウ鯉の條 ○人糞
 一切の毒を解するふとサニウ河豚魚の條 ○小兒の久咳を治する薬方サニウ河豚魚の條
サニウ河豚魚の條 ○久咳ふ下利を兼たるりの薬方同 ○蛇咬を
 治するふとサハウハの條 ○やけぢみ雞子の油を用するふとサニウ雞卵の條
サニウ薑の條 ○薬の煎トゆうのふとサニウ薑の條 ○腰痛腹痛をむするふと
サニウ薑の條 ○小兒ふいめれたぶび薬のふとサニウ薑の條 ○溺死を治す
サニウ薑の條 ○睡薬の毒を解するふとサニウ茶の條 ○痘瘡ふ
 茶を用て効あるふとサニウ茶の條 ○熱劇大渴ある病ふ冷水を用て
 効あるふとサニウ茶の條 ○常ふ眼を冷するのふとサニウ茶の條
 ○灌水处理水浴水服水ふて治する病のふとサニウ茶の條
 ○食後ひとり按摩のふと并ふ圖サニウ茶の條 ○穀肉果菜の性を

るふとサニウ茶の條 ○薬の性ふ寒熱温涼とりのふとサニウ茶の條 ○信どる
 小よりて病も治するふとサニウ茶の條
 ① いら ② ぢい ③ も ④ は ⑤ へ ⑥ ち ⑦ り ⑧ ん ⑨ ぢ ⑩ ん ⑪ ぢ ⑫ ん ⑬ ぢ ⑭ ん ⑮ ぢ ⑯ ん ⑰ ぢ ⑱ ん ⑲ ぢ ⑳ ん
 ⑳ ぢ ㉑ ん ㉒ ぢ ㉓ ん ㉔ ぢ ㉕ ん ㉖ ぢ ㉗ ん ㉘ ぢ ㉙ ん ㉚ ぢ ㉛ ん ㉜ ぢ ㉝ ん ㉞ ぢ ㉟ ん ㊱ ぢ ㊲ ん ㊳ ぢ ㊴ ん
 ㊵ ぢ ㊶ ん ㊷ ぢ ㊸ ん ㊹ ぢ ㊺ ん ㊻ ぢ ㊼ ん ㊽ ぢ ㊾ ん ㊿ ぢ
 ① ぢ ② ん ③ ぢ ④ ん ⑤ ぢ ⑥ ん ⑦ ぢ ⑧ ん ⑨ ぢ ⑩ ん ⑪ ぢ ⑫ ん ⑬ ぢ ⑭ ん ⑮ ぢ ⑯ ん ⑰ ぢ ⑱ ん ⑲ ぢ ⑳ ん ㉑ ぢ ㉒ ん ㉓ ぢ ㉔ ん ㉕ ぢ ㉖ ん ㉗ ぢ ㉘ ん ㉙ ぢ ㉚ ん ㉛ ぢ ㉜ ん ㉝ ぢ ㉞ ん ㉟ ぢ ㊱ ん ㊲ ぢ ㊳ ん ㊴ ぢ ㊵ ん ㊶ ぢ ㊷ ん ㊸ ぢ ㊹ ん ㊺ ぢ ㊻ ん ㊼ ぢ ㊽ ん ㊾ ぢ ㊿ ん
 ① ぢ ② ん ③ ぢ ④ ん ⑤ ぢ ⑥ ん ⑦ ぢ ⑧ ん ⑨ ぢ ⑩ ん ⑪ ぢ ⑫ ん ⑬ ぢ ⑭ ん ⑮ ぢ ⑯ ん ⑰ ぢ ⑱ ん ⑲ ぢ ⑳ ん ㉑ ぢ ㉒ ん ㉓ ぢ ㉔ ん ㉕ ぢ ㉖ ん ㉗ ぢ ㉘ ん ㉙ ぢ ㉚ ん ㉛ ぢ ㉜ ん ㉝ ぢ ㉞ ん ㉟ ぢ ㊱ ん ㊲ ぢ ㊳ ん ㊴ ぢ ㊵ ん ㊶ ぢ ㊷ ん ㊸ ぢ ㊹ ん ㊺ ぢ ㊻ ん ㊼ ぢ ㊽ ん ㊾ ぢ ㊿ ん

ころぶれはごま丸 さまのあがり丸 あんふゆく丸 ござう丸
 あぶき丸 あめ丸 あまだい丸 あふご丸 あび丸 ささうめん丸
 酒丸 ささい丸 さう丸 きき丸 ゆてたま丸
 みもと丸 あめ丸 めん丸 ーゆう丸 あう丸 ぶみ丸
 あはびき丸 ひたまり丸 ひらめ丸 ひりの丸 もり丸
 すまの丸

病家須知卷之二

病家須知卷之二

食物能毒の心得を説

初小述たるごまの平常養生の心得もその第一は飲食小あ
 り。既病あるものもま病者を看護する小も先其飲食を擇
 禁宜を審小し。病者の欲小應べ。小よよりて食も進病
 の治をる小ともあは。是を知こと尤肝要あり。故小今其梗槩
 を此小説示んと。凡人の飲食をる。その飢渴を療生命を保
 る爲なり。然を其生命を保べきものを貪る。生命を害する。尤
 愚昧の至あり。是を古人ら其小さを養て大なるものを
 忘とく賤たまへ。故よ人の人さる小とを知んとならば。飲食

の慾を縦ヨク小ホキヤをるフカクおとら。深恥フカクべたことあり。世の諒コト小シヨク食を損ヒカユは身の養足ヤキヒタラば。肉を多喫オホクささへ。體小カラダ滋液ウルホヒをいふ。こも大オホを誤アヤリかり。白クニの物を屑コニスるを見よ。物多モノけさへ。粉粗コ少アタけさへ。精コメカか。正マサとさら肉ニクを脂多アヲ餒オホクやせし。過喫オホクへば。必身カマ小ミ害ガイあり。肉多ニクと。雖イハレ食の氣小キ勝カタしめむ。古聖イニ人の戒イセあり。漢土モロコシを米穀コメおと小コメ乏トホレく。就中ナカン稻ウレヒの貴タケキことを錦小ニヒキ比ヒく。親オヤの喪モ小ク食シおとをハ許ユサさ。一ヒトことさへ。古昔ムカシの書シヨ小アキ明ミあり。且カ惣スて米穀コメを我邦ワカクニの物小モノ劣オトリて。味麁アヒビ薄マツク臑液アアラ少シく。こも小コその國クニの初ハジメを見るミ。壤地トチ西北シブ小コ關カく。海に遠トホけさへ。上代ウヘノを魚肉イサ尤モト乏トホレく。中古ナカノ小コありて。比ヒ目魚メノをら。か。小珍チン重チヨウさるあり。さ。憶オモえて。今イマもな。海魚ウミイサの生鮮アフラケキ

を生涯シヤク見ミる。小とオホた。た。こ。ろ。も。多。あ。る。べ。し。か。、。る。邦クニを。小。雞ニトリ豚ブタを畜カヒ。諸獸シヨダモノを常ツヨクの膳サイ小スルも充トこと。習ナラと。を。我邦ワカクニの。小。と。さ。さ。米穀コメの甘美ウマキこと。萬國マンクニ小超コエ常ツヨク小喫クニこと。ろの稻ウレヒ米メを。異域イコクの品ヒナよ。其味ソノ尤モト優ユく。臑液ウルホヒ多オホく。志シの。を。ら。ば。環海ケルリウの國クニ小。て。魚肉イサ饒タク多サシ小スく。卑賤イヤシキものといへ。ど。も。は。飽足アキタラさる。を。の。酒サケも。ま。醸烈キリシヨクこと。支那シナ諸國シヨクの及オヨブこと。ろ。小。あ。ら。ど。か。、。る。を。の。を。常ツヨクに。飲食インシキを。る。故ユエ小。我邦ワカクニの人ヒト小。壹粘イツネ臑ウルホヒ留飲リウインよ。ま。きた。る。病ヤミ小。と。小。多オホく。如此カレこと。を。も。辨ワカむ。異邦イコク中夏チュウカの書ホンを。讀ヨムもの。や。や。も。を。さ。へ。我邦ワカクニの昔ムカシを。獸肉ケモノを。常食ジヤウシヨクと。し。たり。喫クニへ。こ。く。を。さ。を。人ヒト小。勸ムスる。を。の。あ。は。ど。も。上オホ古ムカシの海ウミよ。こ。た。た。地チ小。都ミヤコと。ま。ひ。

たる時と異^カ。今ハ四海運輸自在^シ。魚肉小^ト。國も少^コ。古を以^テ。今^ノ。律^ヲ。死^ニ。にあらば。ほ^シ。今^ノ。世^ノ。ありとも魚肉。あ^リ。地^ノ。小^シ。獸^ノ。肉^ヲ。を喫^ス。こと何^レのあ^リ。死^ニ。あるべき。を。で。小。海^ノ。小^シ。死^ニ。信^ニ。濃^ニ。諏^ニ。訪^ス。の社^ヲ。神^ヲ。も。今^も。あ^リ。は。鹿^ノ。肉^ヲ。を喫^ス。ことを許^ス。た。ま^ふ。こ^の。聽^キ。王^ト。土^チ。地^チ。關^ニ。米^コ。穀^コ。饒^ト。多^ク。小^ナ。なり。く^{より}。膏^ニ。腴^ニ。獸^ノ。肉^ノ。の。邦^ノ。人。小^ガ。害^{アリ}。ある。と。解^ス。る。故^ニ。小^シ。自然^ノ。の。道^ヲ。理^ス。小^シ。た^は。唱^フ。い^つ。和^ト。も。あ^く。我^レ。邦^ノ。の。神^ノ。明^カ。大^キ。忌^ム。を。禁^ズ。制^ス。た^ま。ま^ふ。と^も。い^ひ。習^セ。る。あ^り。か。る。天^ノ。然^ノ。の。理^ヲ。を。も。明^シ。と^し。く。大^キ。忌^ム。を。佛^ノ。法^ヲ。興^ス。隆^ス。小^シ。あ^リ。王^ト。た^る。故^ニ。あ^る。王^ト。な^ど。い^ふ。も。愚^シ。昧^ナ。あ^る。あ^と。あ^り。も。一^ツ。獸^ノ。肉^ヲ。を。穢^ス。と^り。い^ふ。と^バ。魚^ノ。鳥^ノ。も。ま^ま。同^ニ。肉^ノ。類^ト。小^シ。て。穢^ス。と^り。と^も。と^も。へ^し。生^キ。あ^る。物^ヲ。を。食^ス。こと。を。

禁^ム。と。な^ら。ば。禽^ノ。獸^ノ。魚^ノ。介^ノ。の。差^ヲ。別^ス。を。あ^る。べ^し。ら^ば。然^ル。を。魚^ノ。鳥^ノ。を。禁^ズ。せ。ど^し。て。心^ヲ。と^り。獸^ノ。肉^ヲ。を。禁^ズ。む。こと。も。か^の。膏^ノ。腴^ノ。品^ノ。の。人^ノ。の。體^ノ。小^シ。宜^シ。あ^ら。祿^ハ。人^々。己^レ。々^々。が。身^ヲ。小^シ。具^ト。た^る。神^ノ。明^ノ。の。自^ラ。然^ノ。小^シ。禁^ズ。む。故^ニ。な^る。あ^と。は。と。明^カ。あ^る。小^シ。あ^ら。ば。や。ゆ^ゑ。小^シ。無^シ。病^ヲ。壯^ク。健^ク。の。人^ノ。小^シ。も。あ^ら。ば。獸^ノ。肉^ヲ。を。さ^ら。小^シ。も。い^ふ。と^も。魚^ノ。鳥^ノ。あ^り。と^も。恣^ニ。小^シ。喫^ス。く。度^ヲ。を。過^ス。て。も。敦^ク。阜^ク。の。害^ヲ。懼^ム。へ^し。を。べ^し。く。の。食^ヲ。事^ヲ。ハ。七^ノ。八^ノ。分^ヲ。を。そ^の。度^ニ。と。あ^ら。せ。へ^し。慣^ナ。て。常^ニ。と。あ^ら。せ。を。飢^ヲ。を。知^ル。も。の。小^シ。あ^ら。ば。況^シ。や。酒^ヲ。肉^ヲ。染^ス。餅^ノ。の。類^ヲ。も。尤^モ。過^ス。食^ス。べ^し。死^ニ。もの。小^シ。あ^ら。ば。飲^ム。食^ヲ。を。恣^ニ。小^シ。く。止^マ。さ^せ。と。斧^ヲ。を。も^つ。く。腸^ヲ。を。斷^ツ。ご^と。し。さ^せ。と。病^ノ。人^ノ。の。血^ヲ。液^ヲ。の。滋^ヲ。補^ス。を。養^フ。精^ヲ。食^ヲ。小^シ。須^ク。者^ト。も。常^ニ。の。例^ニ。小^シ。あ^ら。せ。を。時^ニ。宜^シ。小^シ。從^テ。て。酌^ヲ。用^ス。ハ。あ^る。あ^と。あ^り。と^も。と^も。を。と^も。を。

も一槩サイ小禁イムべーといふ小あらば。お、心得カドをたおとる。たとへ血液ケツ枯燥クツクするもの、餌食クスリケヒ小宜ヨロシキものありとも。病人ヤマトの好ヨシざるものを強ヒキて喫クハしむるも益エキありのまならは。却カハて轉輸ハランコトを沮礙サマタケルの懼オソシあまは。餌食クスリケヒ小必カナラ病人ヤマトの意ココロ小適タラもの、中小ソノシヤく。其性味ソノシヤ善品ヨロシキモノを撰エラヒて用モトメるを專セン一イツとすべきおとな。そまも一イツ次ジツ小喫クハしめても。泥滯ツカユルを滋養ヤシナヒ小あらばぬものあり。おのこと強カチよく解カキて。餌食クスリケヒの品モノを撰エラヒぶべし。平常ツコ小喫クハ慣ナシするものを病ヤマトありとく嚴制キゼンをべたおあらば。消化コナレ難アシキものからば。大方オホキを喫クハしめく可ヨシ唯分量ヨシキリを過スゴさるもの。酸スウ苦ク甘カン辛シン鹹ケン等の偏味ヒトイロを多喫オホクハ可ヨシらば。ほと同品ドウモンを數日マイニチ喫クハも

あし。おのるく些チづ、喫クハたるのよし。食クハむは自然シズカ作用力サウヨウリキの必カナラを平素ヘイソ其人カノヒトお小殊トクナシく嗜好スキコムものあり。そまも自然シズカ作用力サウヨウリキの必カナラを物モノ小託ヨリく益エキあることあるものあり。偏味ヒトイロありとも大方オホキを許マシく損ソシなれものあり。まもまも其度ソノドを過スゴせば必害カナラを招マシる也。煮ニこ。造ツク成節セイセツをること肝要カンヨウあり。慎シズカで其味ソノシヤ小耽オシおとな。まもまも酒サケを嗜スキて朝夕アサヨリ定サダりたる食クハ小換カハるたぐひら。まもまも其味ソノシヤ小耽オシもの小チく。自然シズカ作用力サウヨウリキの所為ソノツデ小あらば。よく思オモべし。食滯シヨクタイの輕カサ小薬クスリを用モトメ小及オヨスば食クハを減ヘシく數日マイニチを歴ツクする多オホク治ナシるものあり。まもまも食クハハ飢ウツて喫クハべたものあり。無病ムシヤクのときといふとも。朝餐アサメシいまも消化コナレどとおもは。午飯ヒルメシを喫クハべらば。晚ヨリ

食翼且シヨクシヤク小コありくもあらず下降サガリくぬると知オモバ。早饑アサシも飢来ハラヘリて後小コ喫クフべし。常小ツチ如此カクを色シヨクタイバ食滞キヤクの患ケツを決ケツくある小コとなし。食滞シヨクタイ食傷シヨクシヤクをさシれ小喫クヒするもの消化コナレざるところへ。重カサく喫クフ小コよりテ發オシものなり。人ニハカその急ハラ小腹痛イタミ苦悶クルシモタを見ミく。その時トキ小喫クヒするもの中ナカたるとかアもへとも。まマつマく左小サあらば。餒敗スモたるものハ大毒フノあるもの小コあらば。卒暴ソバカ小腹痛ハラを惱オモ小コいイらぬものハある。まマべくのこと其度ソノホドを超コエて。樂却タカレモカクて苦クシなる。酒サケの微醉ビサイ小飲ノミ。花ハナ半開ハナミを看ミルをよヨいとトいふ小コあらば。常小健啖オホクヒする人ニヒト。その思慮オモ知見アヒも自然ゼンと昏眩クラヤシあるものなり。庸愚ヲロカある性質ツラシキ小くも。飲食ノミクヒの慎ツレミふフく。食六七分シヨクシヤクを度ホドとトする者モノ。

意表オモヒノサカある知慮シヨクケンも出イるもの小コくたタとへ病ヤメありても至劇ヘキキ小赴イシラを漸シダ小差サて。身體カラダも輕爽カヨヤカ小なるものあり。小色オシを天地アメノチの真理マコトよヨいへヘ。自戒ミオノセく慾ヨクを恣カシよヨせぬ。天命テンメイを知ヒル小近チカけケを心ココロも隨ツラて平小身ヘイコミも健タカあり。まマ受得ウケエて定サダメある天祿テンロクを食クヒのホをホとトあアる。享年イノチも自延ミダシべクき道理ダウリあり。まマ事實カクチアルモノの上ウより論ロンをトとトあアる。飽食過飲オホクヒノミするもの。氣血キケツの轉輸テンシュ漸シダ小遲溢オシヤクあるもの。小睡オムリ眠ネムを貪ムサウく萬事マンジ小懶モノウく。身體カラダの舉動トリマツルあアく。智見チケン朦昧マウクよヨして。一切イツセツ堪忍カンニンとトあアらラば。車クルマ小處カウて明アキラカからラば。常小悔恨ツヤムこと多オホけケ色シバ。鬱悒ウツウツ望ノゾ慮リ暴怒ハヤガチ虧心クシ小。いイよく元氣ゲンキ主宰サイザンの職シヨクを失オシひ。腸胃チヤウイ氣血キケツの運行ウンギンを障礙サマシこと多オホく。病ヤメも隨ツラく進スミやヤをク。必カナラその天年テンネンを全ソクダウと

るおと能は。予此言の實否を人々自試く自明むべし。其深理
小至るおの編のよく詳説とあり小あらばたゞ其一端を示
をまぐなり。猶攝生の編小述する。食眠身息心の五を調和する説
を讀得て參攷をべし。

惣ての飲食をるもの。其三分の一を勝理昇陽より發洩三分の
二を前後洩とあるものとまづ心得べし。復ち昇陽より洩こと
多冬も小便小出ること多も汗多發たるとは小便少も其
原相遠ざるを以てか。おの昇陽兩便の通洩いさゝるも澁滯
ことある小從く。一切の病とあるの故。假令無病の人ありと
も二便の通利と飲食の分量を常小意を加て自考知こと肝要

あり。大便の秘閉もよろしから秘と小便の飲量小比く少きる。
病の漸小をせやと速注意て慮を爲べし。久病重患小くも小
便の通洩一昼夜も絶く無る必容易のこと小あらばとまづお
もふべし。是大小便の通利を説の大略の之。其詳おとる俗人の
心解をせし小あら秘なり。
大病瘥とくや、食を思とせし。満つ至軟かく消化やせし
物を擇ていさゝるは、與べし。必過べらむ。食事も三次小限
たるおと小あらば。一次小與んともふものを。二次小も三次
小も喫くめたるおよし。まさ頻小飢く食を欲小與さむ。却り
不食とあるよしあり。故小一次小多與て問あらんよりをとり

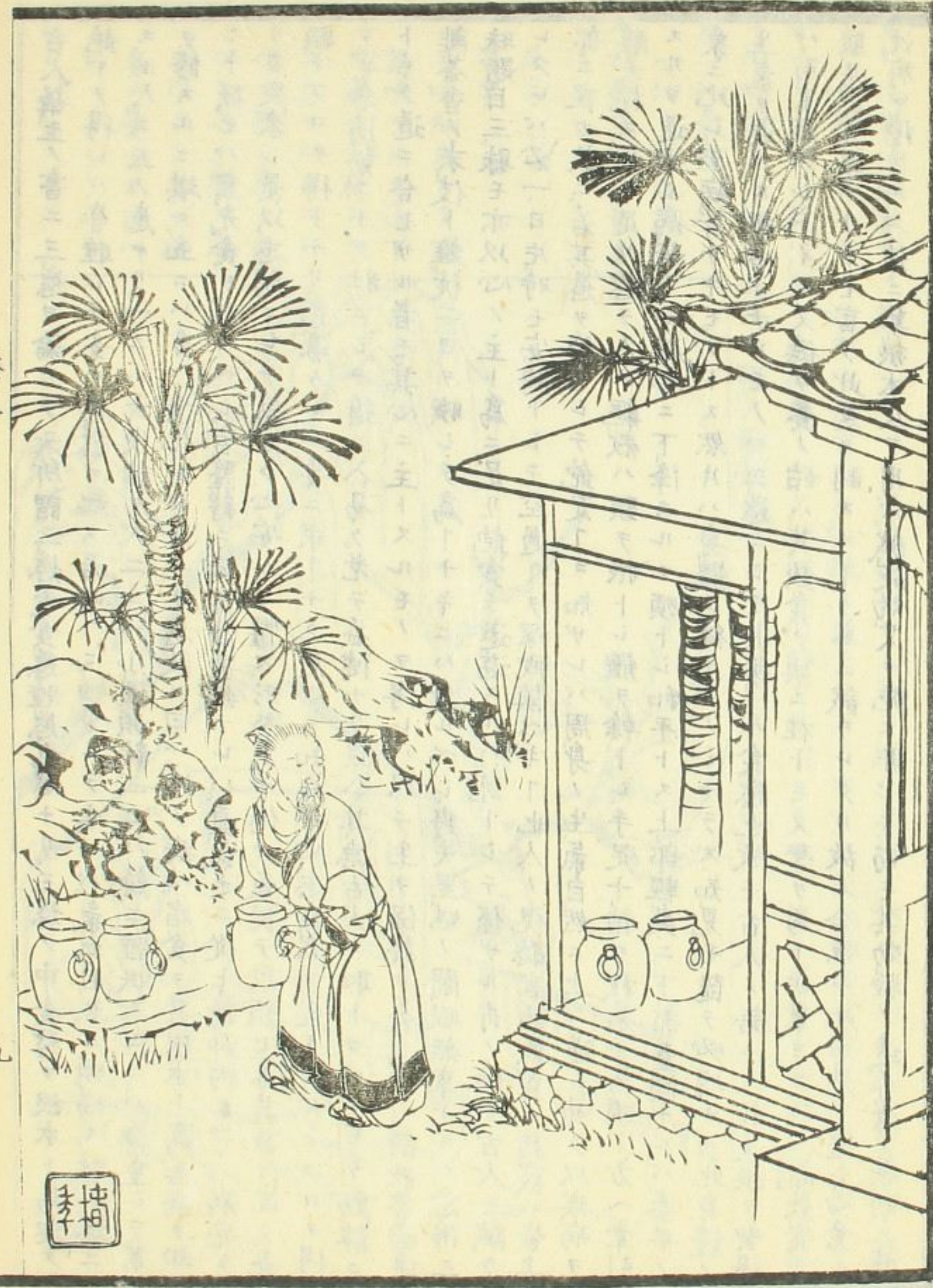
をり少づ、喫せく。運化の機を導べし。七色ゆゑ復素小あり
たる病者小。夜中も糜粥やうのものををり補う用意し。不時
の需小供るやう小をるふよし。
食物の禁忌も。其人の強弱と性質と。病小由る酩酊あるおと小
て。一途小論ふたはあとか里。且假令生質壯實あるもの小く
も。多年の病小懼。腸胃脆弱ありさるる。或も大病小く久不食と
るとはら。一切の消化あしきもの粘膩あるもの、類を。最消息
せ補をあらぬことなり。はら痘疹前の禁食産前後の禁忌を
いひく。昔より平常の喫慣たるもの小拘忌をるる。大か左計
ある。産婦小川魚と禁といふも謂はたあとか里。川小流るとい

ふを禁たるまらあるあとか里。古人もをて小論し及ものあり。は
た諸病小各禁物あること。或醫書小載俗間小もいひつゝふさ
とも。無益あることのおく。執拘ふたはこと多し。たゞ禁合食
も。其物小異なる性質ありて。一物小く毒をたものも。彼と是
と相合て。人を害するおとあは小し。もあはら補べ。決して其理を
しといふも却ていさらぬ臆断あはとも。通途の醫書とも小記
たるも。七色小もあはらぬことをおとくくいひく。明據とあし
がさたあとも多し。其佗時あはらぬ物。名も知ぬ物。常小喫慣ぬもの
も一切禁くよし。まら煮て宿を経たるものも。一切の菜肉決
て病人小喫しむべあらむ。攝生家とたとへ無病の時も煮て日

を經たるものも。餒する小あらばとも必喫ことをいむ。其故ハ
顯微鏡小く其色を見よ。微細蟲生トくいのふど火小灸ても速
小死ぬるもの小あらば。六の蟲暑熱の頃尤多生じ。別く慎べ
し。
看病人の尤心を注べたものも飲食あり。まゝ固病あるものも。
醫と撰小其宜を得ば。或る僻境小く醫小乏さう。をくも藥を
服しと經久けさども効あらたの類も。其飲食を慎起居動作を節
して。安かる藥を服む。病を自然小委て治さるゝとま、多し。む
らゝ或癩病を得。面部手足とも膨脹潰爛。その臭穢近べら
ば。他人といふもさらあり。のちくハ親戚も省問もの少やう小

ありたる也へ。かく家小在て恥とせんよりも。深山幽谷小入
こもかくもあまのいと。竊小家を遁出て。人跡絶たる山中小入
樹下小卧崑穴小棲て。果實草葉ある小まのせく採茹。溪澗タニ下
てる水を喫。かくく期年過るうち。腐爛クミタレとある漸小瘡て。
いつく顔色うるハくを。身體爽健あること以前小倍し
く。再家小歸するものありと聽り。こまあるを道ミチ理小く。俗諺
あおら。一小看護。二小飲食。三小藥治といふおとく。急劇暴病
を除の外も。其服藥を急んよりも。先飲食を戒ること専用あり。
常小をちふる穀肉果蔬ハ。皆人を滋養ものを擇エリい小へより
上下かへるべきの食膳小充たるもの小て。幼より腸胃小習慣

たきども。其人の嗜好とあるの偏小よりて。はる病を生むるあ
 とあり。故小其發するところの病小從て。其慣來するものを嚴
 禁制し。其損害らさるるところを治さば。自疾も瘥まふ服と
 あるの薬も速効を奏やまふ。そしつ薬を服するに小く。飲食
 の慎簡率あるを。用どころの薬小よりて却て害とあるものあ
 り。今左小舉どころ。常小をちふる穀肉果蔬も。病證小よりて
 宜禁あると。はる其飲食小託て病を治さることあるとの
 類數十品を出。その要領を曉て。他のことより例し知むる
 まであり。世小食療の書數多あるども。性味効用を論むること。
 多い影を搏やうある空論小く。據とあるおたはあとのみあれ

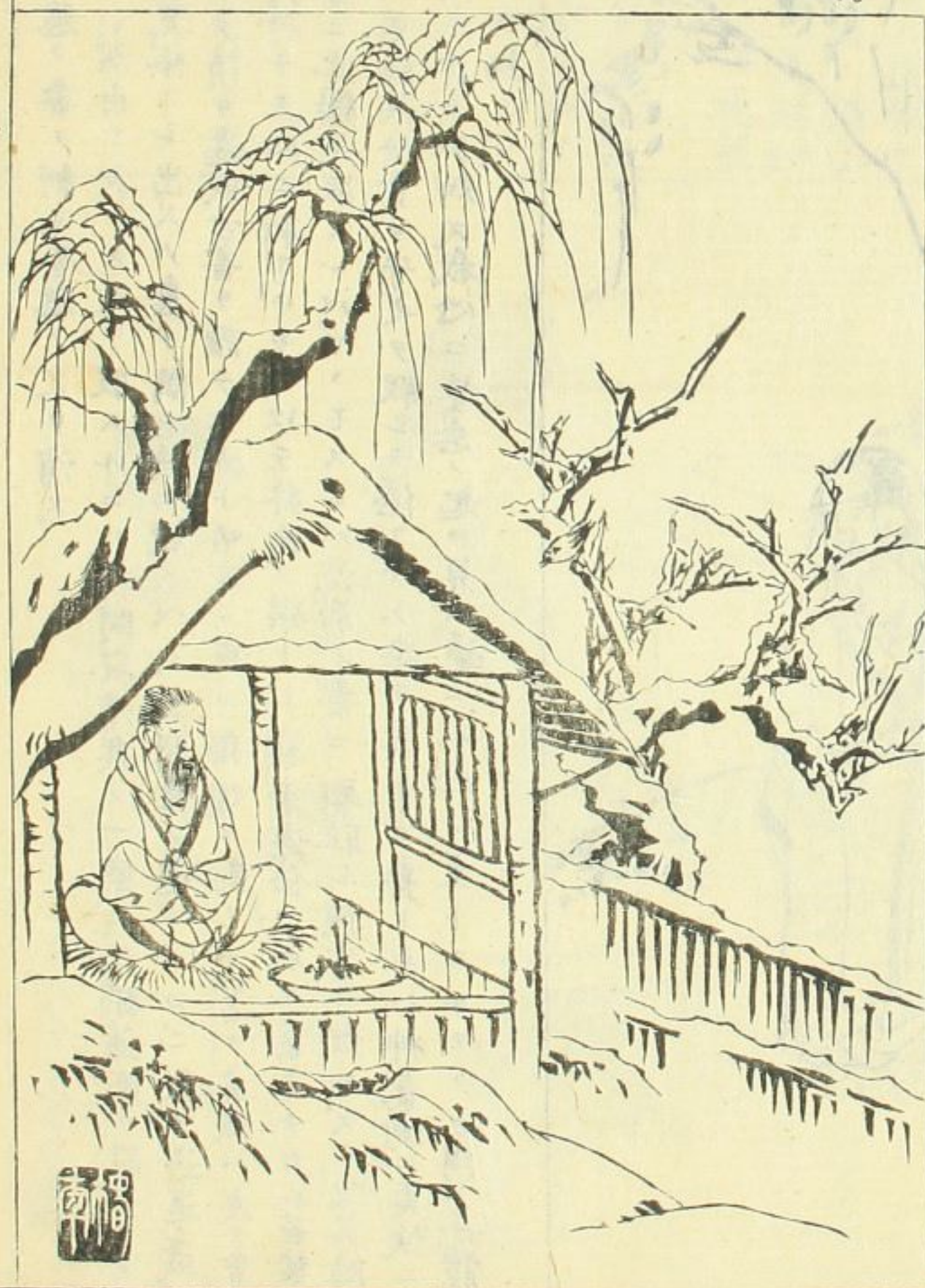


古人攝生ノ書ニ三慾ヲ論ジテ云。所謂三慾者。食慾。睡慾。色慾ナリ。三慾ノ中。食慾ヲ根本ト爲。喫テ飽ヲ得レバ。昏睡シテ多ハ色慾ヲ起ス。若喫テ三四分ニテ止レバ。氣血自然ニ順暢ス。味ヲ慾ニスル人ニ五ノ患アリ。一ニハ大便調ラズ。二ニハ小便頻數。三ニハ饒ニ睡眠ス。四ニハ身重シテ業ヲ修スルニ堪ズ。五ニハ多ハ消化セザルヲ患。故ニ曰。一切ノ病。唯宿食ヲ其根本ト爲。若病ヲ却ント欲セバ。宜先食ヲ減ズベシ。古醫籍ニ云。恬澹虛無ナレバ。真氣之ニ從ヒ。精神内ニ守リ。病安ヨリカ。從來ニ是以志閑ニシテ慾少ク。心安シテ懼ズ。形勞シテ倦ズ。氣從テ以順ヒ。各其欲ニ從テ。各願トコロヲ得トナリ。慾寡ケレバ。安ニ求テナク。足テ知片ハ心志自然ニ主トスルトコロヲ得テ。妄念萌動ナク。壯ニシテ道ニ入易ク。老テ益健ナリ。假令其徳古人ニ恥トコロアリテ。動靜コトク道ニ合セザル者モ。其心ニ主トスルモノヲ得レバ。以テ生ヲ保終ヲ善スベシ。詩歌書畫連誹。茶香ノ末伎ト雖。徒ニ日ヲ曠シテ爲トナキニハ愈ルベシ。野夫里嫗ノ閑暇無事ナルハ。念佛三昧。題目三昧モ亦以心ノ主ト爲ニ足リ。飽食テ遨遊スルハ。沈トシテ係ザル舟ノ如シ。古人モ誠ラレタレバ。必一日片時モ安閑トシテ空過テ深戒慎ベキ也。人ノ視聽言語飲食ノ諸竅ハ皆上部ニ在ガ故ニ。若其慾ヲ恣ニシテ飽足トコ知ザレバ。周身ノ生氣自然ニ上ニ逆シ易ク。以疾病ヲ釀大札ヲ致ニ足リ。惣テ人ノ軀殼ハ頭ヲ根トシ。體ヲ輪トシ。手足十指ヲ枝葉ト爲。頭ノ方ヘ牽引スルヲ逆トシ。病苦トシ。腰脚ニ下降スルヲ順トシ。和平トス。上部輕爽ニ下部豐滿ナルハ。泰平ノ象ニ比シテ。病苦ナキモノトス。然片ハ身體ノ健ナルノミナラズ。知見モ隨テ必明ナリ。此身體ノ生氣ヲ逆スル根本トナルモノハ三慾ニシテ。其第一ハ食慾也。故ニ古人ノ語ニ。人能菜根ヲ喫得バ。百事成ベシトイヒ。又徳ヲ養ノ始ハ其飲食ヲ慎ニ在トモ。又學ヲ爲ト四事ヨリ起ル。謂飲食衣服居處言語ナリトモ言テ。此慾ヲ制スルヲ專ニ誠ラレタリ。故ニ今兼テ此三慾ヲ鑿シ心意ノ沈痾ヲ療マルニ。強ニ草根木皮ヲ用ズ。鍼砭灼艾ヲ施ニ非ジテ。而モ其効驗ノ速。尋常ノ藥劑ニ勝

タル丸散湯液數首ヲ掲出シ。コレヲ天下億兆ノ人民ニ授テ。未萌ヲ治シ。已病ヲ愈テ。同壽域ニ躋ンテ。欲ス。其法方ノ如キハ。尽古人ノ軌轍ノ從テ。立方ノ本旨ヲ失ズ。唯時ニ臨デ。一ニノ出入アルノミ也。衆人能信受シ。久服息トナク。何ノ疾苦カ平治セザラン。何ノ事業カ成就セザラン。實ニ却病攝生ノ神方。長生久視ノ妙劑也。仰テ信スベク。伏テ思ヘシ。

第一和氣散

一切ノ客氣怒氣
抑鬱不平ノ氣ヲ
治ス。
忍字 一個
忘字 一個
二味細末シテ。不
語啞ヲ用テ。進下
ス。或ハ先服スル
ニ忍ヲ以テスレ
バ。一朝ノ患ヲ免
ベシ。之ニ繼ニ忘
ヲ以テスレバ。終
身ノ憂ナカルベ
シ。



第二無憂丸 能三慾ノ毒ヲ制シ。妄想ノ火ヲ消ス。
 前方ヲ用テ丸トシ。潔白ヲ衣トス。之ヲ服スルニハ。先。閑寂清爽ノ一室ニ。几榻蒲團ヲ設テ。焚
 テ端坐シ。身體ヲ寛裕ニシ。出入ノ息ヲ調テ。後ニ服スベシ。其間意ノ適トコロニ從テ逍遙シ。或
 ハ風月ヲ吟弄シテ情ヲ遣。或古書ヲ讀テ古人ト晤言シ。或ハ獨爐ニ對シテ茗ヲ煮。或ハ友ヲ會
 シテ清談シ。專。流行ナク心ニ恥ナキヲ以テ終身ノ樂トシ。驕奢遊侈ノ風ヲ慕ナカレ。若禁
 戒ヲ慎マシテ。妄ニ此藥ヲ服スレバ。ヤ。モスレバ沈溺ノ毒ニ眩眩シ。損害ヲ致ヤス。唯其餘
 暇アルトキニ於テ。能其分量ヲ守。之ヲ服シテ倦ナク志ヲ其中ニ養トキハ。神氣漸ニ爽快ニ
 ナリ。世間ニ煩惱アルヲ知ズ。我心ニ妄念ノ起ヲ見ズ。遂ニハ心ノ主トスルモノヲ得テ。身體
 モ隨テ安穩ナルベシ。



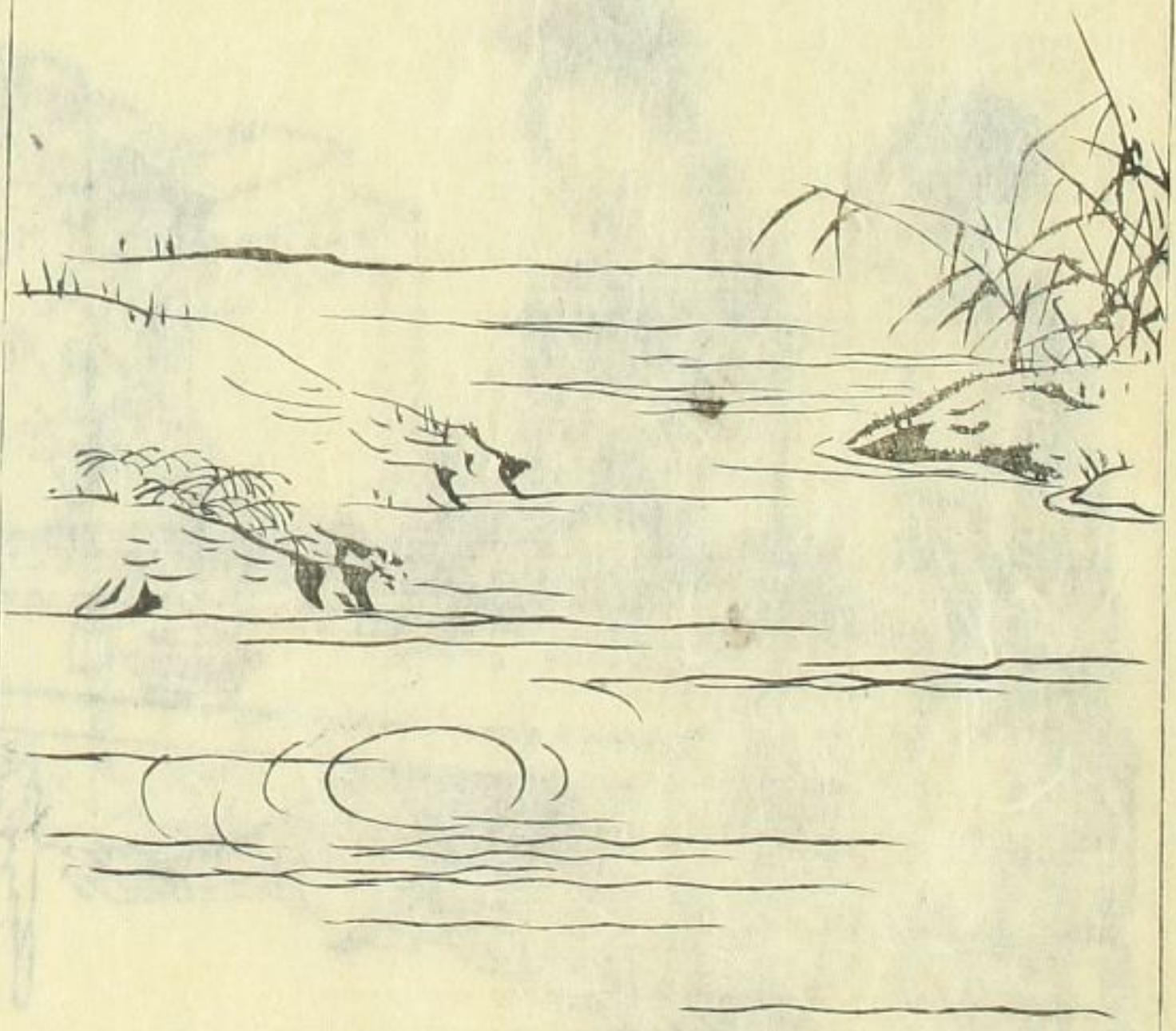
第三守分湯 遊墮ヲ戒驕奢

ヲ制シ。心志ヲ和テ和平ニ
 精神ヲ壯健ナラシメ。未病
 ヲ治シ己病ヲ却福ヲ具々
 ノ中ニ植テ子孫ノ後榮ヲ
 致シム。其効尤諸藥ニ優シ。
 少事^{以當} 早寢^{以當} 晨起^{以當}
 榮儉^{以當} 身施^{以當} 節用^{以當} 晚餐^{以當}
 肉^{以當} 安步^{以當}
 右七味和勻煎成テ意ニ隨
 テ之ヲ服ス。素貧困ノ病ア
 ルニ非モノモ之ヲ服スレ
 バ必益アリ。或ハ此湯ヲ以
 テ主トナシ。兼ニ無憂丸ヲ
 用テスルモ亦可ナリ。成効
 速ナラザル者ノゴトキハ。
 後方長生飲ヲ互用シテ益
 ヨシ。



廬涼乃漬
見之呀
乃見穗乃
浦乃寬
見片物念
毛奈信

第四長生飲 守分湯無憂丸ヲ用ベキ證ニシテ思慮煩擾心志定靜ナラザルモノ之ヲ用ベシ。
靜坐 一時半日或ハ一日或ハ一夜 一味調勻連服ス能放心ヲ收拾得テ精神其府ニ定ル處アルニ至テ止ベシ。

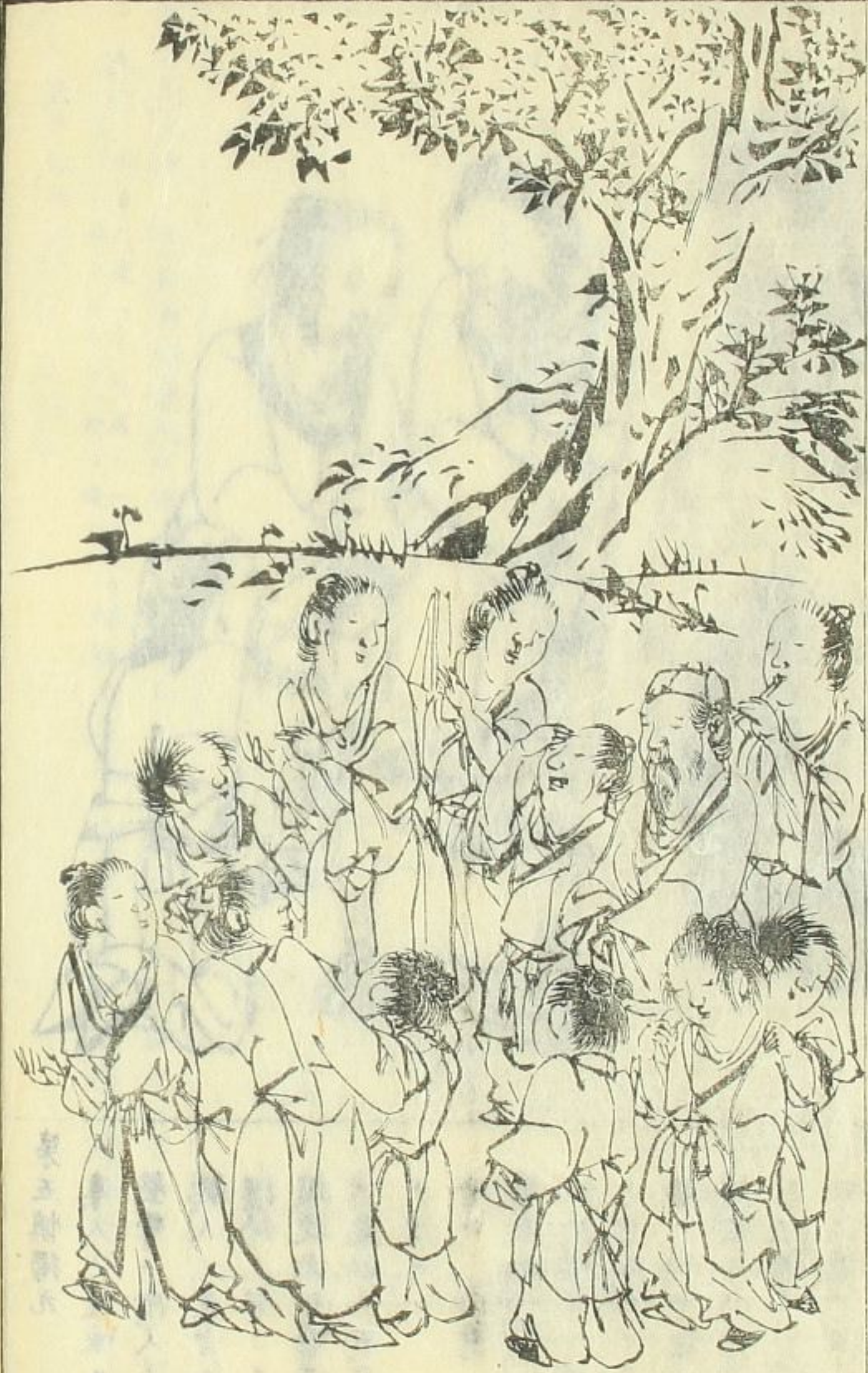


第五慎獨丸

專人ノ咳唾ヲ拾人ノ聲響ニ附人ノ喚使ニ聽人ノ意旨ヲ希人ノ標榜ヲ替テ治ス及摸稜西可嚙喋忿卑深情詭秘ノ病並ニ皆之ヲ治ス。

守口 防意 無思
審慮 各等分各別二時降末ト爲テ後ニ合ス
 右四味丸ト爲不語唾ヲ用テ嗽下ス此丸後湯ヲ以テ送下シテ尤神驗アリ立方ノ旨趣ハ自能口ヲ守一瓶ノ如ク意ヲ防一城ノ如ク思ヲ熟レ處ヲ審ニシ諂ナク驕ナケレバ自然ニ効アル製方ノ妙ハ試テ後明ナリ

第六至善湯 仁義ニ味等分和勻。毎晨ヨリ暮夜ニ至テ之ヲ服シテ數ナケレバ自然ニ心廣體胖
 二積一歳月ヲ以テシテ津唾ニ便汗垢毛髮處トシテ仁義ノ芬香ナラサルモノナキニ至レバ
 身體輕爽ヲ得耳目益聰明ニ才徳大ニ増發シテ邪想妄念地ヲ拂テ動作運爲自然ニ道ニ合ス
 へク其効豫記スルヲアタハズ。



精

る。其心得よく讀べたよとあり。

粥カユ病人小槩ク用ものときととも。粘痰停飲あるもの。咳嗽喘

息及虬蟲の候あるものなどふるま。將息あるをたことあり。

粥の粘稠却て害とあることあり。留飲小く諸治効あく數年と

經たるもの小ハ。魚肉一切膏粱甘味を禁。た。陳廩米の六七

年以上のものを。一日小一合五勺より二合を限。て軟ある

飯小爨。ををうとを搏飯とあり。火小烘黄色小。て。益小盛茶

小ても湯小くも澆箸小く能攪。鹽を少加。く。を三次小食

べ。かくして緊戒を持。こと一年と經。宿患必治。毎も試

驗。ところあり。ある醫人このみと秘。く。安小傳。り。其

効ある大と成已專小せんとあり。惣てかゝる病小者。一切粘稠
あるものハ害あり。もし支飲痰涎ある病者小。粥を用んとあら
ハ。必湯小くその粘をあらひく喫しむべし。

大麥ハ小便を通利する効ありて。其味輕淡といへども。粗糲

消化ありた小とあはせバ。胃弱泄瀉あとの病人小者將息ある

登れ小とあり。そきも田家あどふく幼より喫あはせするもの

害あり。水腫小者必小の物を用ること、心得するものあはせと

も。その甚たをのふるあはせ成も禁下く。赤小豆と喫あはせするあり。

膏粱過度より病とありたるものふる。常の飯小大麥をもちふ

登し。水腫小者碎麥を用て稻米と和ぬるよ。但下利あるも

の小碎麥者尤酌用あるべし。いふ小となれば。麥の粘汁小や、

大便を解釋するの効を具碎麥者其粘汁を去む直小變ことをと

はバあり。

小麥者其性大麥とる大小相違のものをあり。とへく麩粉を用て

製する物。丸麩。麩筋。切麩。線餅のおとれ數種ありといへども。此

物殊小粘稠消化ありたものあはせバ。病人の喫小先者善あらは

留飲。魷蟲。及小便不利等の病者とへく禁てよ。湯餅のおとれ

者。世人專病人の必喫べたものともはせども。先者好きもの小あ

らは。況むやむぎあといふ類者。胃弱者決く喫ことあらは

蕎麥粉と生かて多服バ。よく大便を下利を。故小小兒の大便秘

結小。藥を厭もの小。糖霜を和服しめくよし。暑時小水小調
ても用べし。そむといふ名も。いふがど屑あまても三稜の質を
變はそはるとある由名なり。火熱を經せば。そのそばると
煎も小。生あるやど小。下利せぬあり。故小煮て軟餅とし
るものも。お色成蕎麥麩小比色バ未熟ありといふ危け色ど。粉
をもちひたるほど小。下利せど。志あるあ色ども。蕎麥餅も未
熟ある。泥滯やを死ものおれば。胃弱病者も喫ことある色。性
あしたもの小あら糸と。そばるとある由名あることおもふ危
し。蕎麥麩もまじ諸病小禁ことあるかく。煮熟しとるうへを胃弱
病者小も與てよし。又病瘵小害ありといふも。一槩の言小く。そ

是れその人の稟賦とこの物の熟不熟小よるおと小く。もと毒
ある物小あら糸バ。さしあさりをげし泄瀉ある病人の外ら。
一切禁むる小かよをぬおとなり。はと世人蕎麥を喫て浴と色
を卒死とといひく懼るものあり。決して其理お死ことなり。そ
是れ此物飽食やをけれバ。喫後偶浴したるもの、食厥を發し
たる死とく。志のいひしものある危し。決して蕎麥の毒小くも
かし。されども此物を大し喫たる後。卒暴小腹満て苦悶のま、
あるもの。三稜質よりこの腹満を發しとるなり。志ぶさとい
ふものを細末小しく服せばよくこれを解む。いづ色の藥舗小
もあり。又牡蠣の生汁もよくこの物小あさりとるを治むとい

を^{クル}胡桃肉をたびく試験^{コト}さりこをいふるものあり。予も此物
小中^{アタリ}く悶亂^{モダエクル}死んとせしもの小油^{アタリ}を服^{ノマ}せし即効^{レレ}を得^エたるありと
あり。まゝ此物^{ヒヤスモ}を性冷^{ヒヤスモ}とてきらふる謬見^{アヤマリ}あり。温熟^{アタリ}て喫^{クラ}へむ
やさもの小あらば俗人^{シヤウ}のそからば鑿^{イシヤ}工^{イシヤ}もめ、ること、思^{オモ}て
病者^{キン}の小禁^{キン}むるハ蕎麥^{ソウバ}の性質^{シヤウ}いゝあるものとも辨知^{ワキ}ぬ也ある
里^{ウチ}もと疎通^{ウチツカスカウ}能あるものあらば粘痰^{タシケ}留飲^{リウイン}あるもの心下^{ムチ}支結^{ツカエ}腹
中^{ウチ}妨悶^{シヤウ}をおゆるものも殊更^{コトサ}小喫^{クラ}てよ。小便^{フツ}を利^{ツク}ト熱^{ネツ}を解^ゲ
さる効^{カウ}もあり。まゝ感胃^{ヒキカセ}小汗^{アセ}をべた病人^{カキ}の熱粥^{カユ}をきらふも
の小^コ。此物^{コト}小換^{カハ}て汁^{ジュ}を多^{オホク}く熱食^{ネツシキ}しむるもよ。決^{ケツ}くと禁^{イム}べた
物^{モノ}小あらば。

赤^{アカ}小豆^{コウ}を水腫^{スイシュ}小便^{フツ}不利^{フツ}小餌^{コト}小せ^{コト}ば煮汁^{ニシ}を去^{サリ}て効^{カウ}少^{コト}し。必^{カナラ}よ
く煮^ニつめて用^{ヨウ}べし。まゝ小便^{フツ}不利^{フツ}小汗^{アセ}あるもの、類^ル小
ら鹽^{シホ}を一切^{イチ}禁^{イム}て。赤^{アカ}小豆^{コウ}一味^{イロ}を煮^ニて其汁^{ソノジュ}を服^{ノミ}津^ツを喫^クて他^{ホカ}の穀^{コク}
肉膏^{ニクウ}染^{シメ}を少^{コト}も喫^クことあけむ。尋常^{タイテイ}の水腫^{スイシュ}も必定^{ヒツヂヤウ}治^チをべし。或^{アル}
る赤^{アカ}小豆^{コウ}小大蒜^{コウ}を加^{イレ}煮^ニて大蒜^{ニシク}を去^{サリ}赤^{アカ}小豆^{コウ}を喫^クもよ。此方^{コト}尤^{モトモト}
効^{カウ}あむ。臭氣^{クサミ}小堪^{タヘ}んものも用^{ヨウ}べし。むら。京師^{キヤウシ}の一鑿^{アルイシヤ}よく水
腫^{クミ}を治^チむる名^ナを得^エたり。其藥^{シヤク}方^{ホウ}も。赤^{アカ}小豆^{コウ} 大麥^{ダイマク} 地膚子^{チフシ} 各^各中^中
此^{コト}三味^{シナ}吹^{フク}咀^クよく炒^{イリ}て。一貼^{アク}四五^{モシバカリ}錢^{シヤウ}許^{シヤウ}小^{コト}して煎服^{センジモチ}て。一切^{イチ}の食物^{シヨクモク}
と鹽^{シホ}を嚴禁^{キビシクイム}す。たゞ赤^{アカ}小豆^{コウ}一品^{ヒツ}を煮^ニ喫^クしむ。その大便^{コト}赤^{アカ}小豆^{コウ}
の皮^カをる里^{ウチ}とあるやど小^{コト}あむ。小便^{フツ}快通^{コト}トく効^{カウ}をうるあり。

此の藥小香附子カウアレ縮砂シユクシヤハンダ半復ハンフクとといさ、あづ、加カ。今イマ賣藥バイヤクの利リ心シンより。塩シホを禁イミて赤小豆セコウの之ノを喫クフふとをもや、ゆるべく能書ノウキ小記コキとせむ。原意ゲンイ小たふひく其効ソノカウをくあし、且カワ此藥方コノヤクの勝マカて効シホある小ちあらで。たゞ鹽シホを禁イミて赤小豆セコウを食クハむる。小便フウシ通利ツウリ小驗コケンあること代明ダイメイ小せされバあり。服藥フクヤクと病ヤメの異サマ途サマある小從シヨクく區別キョクベツありとも。をべく浮腫ムクモ小便フウシ不利フウシの病者ヤメも。よく此意ココロを得餌食エツキを擇エラフべさふとあり。鹽シホを斷タチふハ體疲カラガツクんこと遅ウタ疑ガヒて決ケツせぬ人ヒトも、あはとも。も一ヒト小便フウシ不利フウシの證シヨウ進ツクく水氣衝心スイキシュウシンとあらバ、まのあさり命絶イノチタユとてぬべれことあらバ、まつその

患ウレヒを除ノゾクんふとこと上計ジョウケイをたなふの猶豫ウヨウをることあるべれ。假カ令コトハこ、小數コト日敵ニツテキの爲タメ小攻圍コウキするものあらん小其飢渴ソウカクを救スツクこと代先ダイセン小せん。敵テキを追退オヒシヨクふとを先小せん。よく慮オモフべし。も一ヒト此の慎ウツシメのあらぬものも。昆布コンブを煮出ニダレたる鹽湯シホユをの杯ハシて用ヨウべし。そま小くもなや忍コラシむ杯ハシハ淡味醬汁タンミソウシユを喫クハむべし。まさる梅諸ウメソノをたびく湯煮ユヂて。細判ホソクサバするいふ昆布コンブと、も小美淋酒ミリンシユをこ一ヒト加カくよく煮熟ニヒユクし。その梅ウメばしを去サリ。昆布コンブバありを些スコレづ、釘小サイもちふるもよし。こまらも用ヨウさる小ちあさるあり。世小所謂イハユル脚痺カクナ小く小便フウシ不利フウシなれども。體小浮腫カラダなく。たゞ手足麻痺シビレ不仁ミニオホエナク或緩弱アヒカクツキあるもの。此法コノホウ小從シヨクて。其症小的當ソノシヨウの藥ヤクを用ヨウさハ。効カウを得ウル

おと尤速あり。まゝ多年留飲より腹滿て惱の嘔逆かと常小あ
まて體肥胖足脛微腫。暑月尤快らば諸藥効をたもの小水腫
を治さるこ、ろえ小く。おの法をもちふさハ。意表の効あるも
のあり。緩癖の類もまゝ此法を執て治さることま、あり。或る
真の鼓脹ゆるあらねども。腹脹諸治効をたもの。及婦人體肥。月
經不順まゝも癩症顛癩の類もまゝ此法小從て殊効を得こと
あり。も一緩病小歳月を重く。赤小豆のこを日々喫小堪ハ。大麥
をほトへ用んとあらハ。碎麥ふよろし。おの粳米を喫鹽と膏梁
を避さる。小便通利の藥。及敦阜諸症を治さる劑小効をうる
おとかそきことち。をべくの病小其意を擴充て巨利を得こと

ありと意得へい。
資を食て寢さバ尿さハいふを。おの資の効小あらさ。味
厚粘稠ありて化熟おそゆる小。氣血の運輸を妨るおとあさ
ばかり。故小小便不利。及留飲咳嗽。其他胃弱病者小。蒸糯米を
をトめ一切糯米小く制たるものを喫む。むららば。
豆油を。諸病人小害あるおとかし。おと小火煉を歷さるものか
さハ。再煮さるものも病人好ハ與ふ。世豎や、もをれを此
物戒禁さるおと過小嚴さ。お、ろえぬことあり。
酒を。食事さるおと小微飲ハ。腸胃の傳輸を助。肉食泥滯の患を
戒小益あり。おのさども。熱あるもの。支飲家。及平素四肢沈重を

か不ゆるものも禁む。其他酒を禁べば病状繁小いそべ。上
衝眩運頭痛。眼耳鼻。口舌咽喉。肩項。愼て上部小疾あるもの常小
肩背強もの咳嗽喘哮。小便不利。水腫瘰癧。痔下疳。便毒。楊梅瘡。附骨
疽。及肥前瘡。臙瘡。疥癬。諸瘡癰。瘰癧。筋攣。骨節疼痛。脚痺。鶴膝
痺。鼓脹。勞瘵。痲疾の類。つれ小動悸あるもの。衄血。吐血。大小便血。
諸脫血。及陰癰。陰囊つね小濕痒もの。婦人を経行不順。胎子不育。
又崩漏帶疾あるもの。かゝる病小酒を喫く止さば。必其病
勢を進む。世小多あるところの卒瘵。緩痲の類も。酒より發せ
るもの十の八九あり。はと婦人。經行不順のごときへ。酒の力を
りて血の運輸を資益せむことくおもはる。色ども却て血

の壅滯を致し。子藏病を増發ものまゝ多し。そのうち小も勞瘵
の漸ありて鬱悒もの。酒を得て神氣や、舒暢のおとく見ゆる
る。尤其死を促の所爲あり。愼てのやまひ酒力をかりて快やう
小おぼゆるも。おれ酒の温熱の氣志をらく體中小存あひどの
を小して。解散の後々その害を遺あり。いゝ小となさば。其温暖
を發心意を快暢さるる。その氣性小あるところの効あるども
七色を霎時小昇陽ふつとく身體を謝去た。その粘稠なる液
汁の腸胃小のこま。後害を醸せばかり。試小酒を血小滴小
赤色忽變トク。驂騎となり凝結をま。其害を爲と成察をべし。
故小瘴厲濕蒸を却。傳染疫毒を避。寒を禦鬱を達。人をしく歡娛

を起しむることの速ある。此物小逾ものありといふも。病あるものもよくその効と害と辨知て將息ある處にたかり。醋も偏味あるものなれば。過て用せば必害あり。とべく醋を用て製たるものも。消化おそく停滯やを。志のさとも病者の胸膈鬱塞たるもの。および食味を失しもの。たゞおの物を藉て食を進るおとあり。おさらる時の宜き小從。一槩小禁止とべき小あらば。志のさおさとも此物こと小敗壞やをたれものも。器よ久貯するものも。必微細なる蟲その中小生むるおとあり。お急小沽て數日を経たるものも。決して用るらば。ほゞ産後眩運。および婦人の卒癩かど小。醋の中小炭火まゝら石瓦を煨て通

赤小したるを投て。その煙小く口鼻を熏おくるおと俗家小もよく爲おと小く効あるものあり。そのとたれ小の罐やうの滴口大なるもの小醋を盛て。その中へ煨する石瓦を投蓋をを。その口より出る煙を鼻へあて、嗅しむるなどもよし。まゝ石瓦を投て。そのまゝ、小ふりたて、嗅しむるも。輕症小をうへ。劇時ち醋を口小含直小口鼻へ吹おけおとをること。まゝこのまゝ、嗅しむることもあり。嘗て産後頭小昏眩を發し。氣息絶たるもの小。熱醋を鼻竅より灌て治したることあり。こさらのおとをさへく婦人の病小もさきらば。一切の毒小あさり昏冒失氣するもの。卒癩。眩運。肩背急痺。および沈睡病。あるひち酒小

酔て昏眩覺メクルメキサメたきもの小も施テてよし。まゝ薬の瞑眩シケン甚シくい
小とも爲ナスべのらさるもの。此物を服ノミく治チをべし。まゝ病者の居
室の氣の鬱塞コモリたる小。醸醋キツキスの煙ケリを薰クシト。傳染疫痘瘡ヤクビヤウ麻疹ハクハシサの流行リウカウ
を防フセフ小用ること及打撲ドク小さしあさり貼ツクるは薬もかくハ。熱醋アツキス
をもつゝ慰ムシ。まゝち摩擦メリツクルこと。惣フミく率暴ニハカの病小効用多カクヨウことども
ら。ととくの條下トコロ小説明トキアカセをけと。參閱ヨミアハセて施べし。まゝ釐飯スレメレも尤
消化コナレのあしはものあはバ。胃弱病人ハラヨロキ。食の停滯ツカチやとたもの小も
用捨ヨクシヤをべし。まゝ癩毒カサケあるもの。及留飲オヒビク。虻蟲クワシキヤ。小兒の疳疾カン。面色萎
黄腹滿ミハラ手足羸瘦ハリテアヒ等の患ヤメヒあるもの小も。醋スを禁イヒするよし。まゝ
小兒吐乳チヨハキがよび青色アヲキイロの大便オシをさるもの小も。その母乳チヤ媷醋チヤスを

用て製コレラするもの、類ルキを一切喫クハラことなれ。
味醬ミソも。常小喫クヒナレ慣ナレするものあはバ。病人ヤメヒといへどもその嗜好コナミの
委マカセてよし。たゞ下利クダリをげしきもの小も將息ヨウシヤあるを。其佗ソノホカさし
たる効害カウガイモあし。煙草タバコ或アルヒは附子烏頭ブシウカブあとの毒ドク小中アタリく瞑眩メシケンしする
もの小。冷味醬汁ヒヤミソシユを多服オホクニマしむは治イユるを。此物コノモノの能イカとといへど
も。あしあはら冷服ヒヤニテム小よりて効カウある。一切の毒ドクも熱チツを得エく
をげし。冷ヒユルを待マチく静シヅメルを申急シユキあり。この理リをよく會得エトクをべし。
膠飴ミツアメも。麥蘗モヤシより成チキルものといへども。製セイホウを経て性シヤウも味アチも大コト小異
あはバ。粘痰留飲タンケあるもの尤モトモト食シことあはれ。たゞ腹中拘攣ハラウチヒキツリ疼痛イタミ
あるもの小。熱湯アツキユ小融解トカシ服マヒて。その痛イタミをわらく快ヨロシキものありとい

へども。過^{スグ}は。泥滞^{ツカエ}て害^{ガイ}あるおとあはれ。連日^{メイニチ}多服^{タフク}こと成禁^{イム}。
小建中湯^{コケンチュウタウ}といふ薬^{クすり}の類^{ルシ}。此物^{コノモノ}を用^{ヨウ}るものをも。あまり小久服^{コキウフク}を
宜^{ヨシ}らば。况^{ナリ}留飲^{リウイン}家^ケと小^コら。假令^{タトヒ}藥病^{ヤクビョウ}的^{テキ}當^{タウ}あるも。時^{トキ}小臨^{コリン}での
酌用^{サツヨウ}あけせば。却^{カハツ}て妨害^{サマタゲ}とあるおとあり。故^{ユエ}小俗家^{コロクウケ}もこの意^{ココロ}
得^エある魚^{イサ}は。おとなり。まゝこの物^{モノ}小毒^{コドク}を解^ゲる効^{カウ}あり。こゝも
記^キ得^{トク}て益^{エキ}あるとあり。
飴^{アメ}糖^{ドウ}を指^{サシ}の大小^{オウサイ}の小^コを。長さ三寸^{サンサウ}ハるりにきり。その頭^{アト}尾^ビを
殺^{コロス}。肛門^{カウモン}小^コふくさし内^{イレ}。大便^{ダイベン}の下^{シタ}おたる意^{イミ}ありて通利^{ツウリ}の
たれ。小蜜煎^{コミツケン}小換^{コカヘ}く用^{ヨウ}るおと。邊鄙^{ヘンポ}かど小^コくをるにあり。
救^{トク}乳^{ニウ}を。世人^{トクニ}の大小^{オウサイ}禁^{イム}とあるおと。ろえおたれことあり。も

と黄大豆^{ワウダイズ}を用^{ヨウ}て製^{セイ}たるもの小^コく。軟脆^{ヤカクニ}消化^{コナレ}やま。こゝろとそ
害^{ガイ}あるを見^ミを。むろし。鹽^{シホ}膽水^{タンスイ}を多用^{タフヨウ}く硬^{カタ}りし由^ユきけ。そ
こゆゑ小禁^{コイム}するあるべし。眼病^{ガンビョウ}小禁^{コイム}もまゝ。妄見^{ヤウケン}あり。さ。洞瀉^{ドウガ}
の病人^{ビョウニン}小^コ宜^{ヨシ}らぬまゝあり。
棘鬣^{セキセツ}魚^{イサ}も。病者^{ビョウシャ}の餌食^{ケシキ}小^コ尤宜^{モトモヨシキ}もの小^コく。一切^{イツセツ}禁^{イム}ところあり。痘瘡^{ハウサウ}
の内托^{ノウダク}小^コ用^{ヨウ}る。鹽藏^{シホザウ}小^コく遠^{トホキ}より致^{イダス}ものも好^{ヨマ}し。あらば。
鮑魚^{コウダヒ}へ。毒^{ドク}あり。人^{ヒト}小^コ益^{エキ}あらば。と古来^{コライ}よりいひつゝ。へたま
も。さしたる害^{ガイ}あり。とるをえど。いゝさま小^コも病人^{ビョウニン}の喫^{クム}る宜^{ヨシ}
こも思^{オモハ}は。強^{シホ}て好^{ヨム}小^コあらむ。與^{ヨル}ぬるよし。
黄穉^{ワウジ}魚^{イサ}を。世人^{トクニ}をつをら。病者^{ビョウシャ}の食料^{シキリョウ}とせ。と。棘鬣^{セキセツ}魚^{イサ}小^コ比^ヒて

を大小劣るものあり。
鰻鱺を病者の好小まるとべし。多食しむべからば。諸瘡小用て
内托の効あり。瘡瘡小もまゝ與ふ。蟲を殺勞瘵を治むることを
いひつたふれとも證あり。羸弱病者の虚を補べしとちいへど
も。過喫は下利を促こともあはば。症小より用捨あるべし。
あかごち鰻鱺の種屬のやう小見申さとも。纖骨多その性大小
劣もの小く。餌食小を爲さし。
鯉魚を婦人の乳汁を出。小便を通むる効あり。一切の病者禁こ
ころあり。水腫小用る鯉魚湯といへる。鯉魚の大き七八寸よ
里一尺をありのものを。そのまゝ小煎服する古方ありとも。

苦味ありて服ぬるもの小。腸と去まづ板昆布の長一尺四
五寸をありの。水一升入る五合小煎。その昆布を去て。其
汁を用て鯉を煎す。三合小煮つたりたらば。まゝ其鯉をも去て。
その煎汁を三小分。一日の中小用るあり。腥を厭もの小。柚皮
或ち椒芽椒末と成加用べし。水腫小便不利。諸藥効なく。鑿
の手を束たるもの。穀肉一切鹽味を禁す。こきを用。意外
の効あることあり。然ども鯉魚湯の里を服。禁忌小宰畧を
述バ。や、もまはば泥滯あり。胡椒と鯉魚と同食とを禁
るその理あり。赤小豆ととも小喫べらばといふも。全そ
の義ありとなり。

子、マス 鯽魚膾を。痢病の餌食とさせども。いまごその効をみざるのそ
あらば。却く停滞て害とあるとあり。こまらの物をたのそて。
痢病の劇症を治むべし。小あら衽を。用ざる小るし。のば。
河豚魚も。一種の中小も毒あきと毒あるものありて。漁人とい
へども。辨別し。さく。あち小鮮と敗と小もよらば。烹調の精
麤小も。關む。もしその毒あるもの小會バ。その死踵を回ば。之を
いつも見聞し。あち省ことあくし。其味を貪輩ハ。禽獸小も
逸小劣たることあり。もしその毒小中さる者。速小吐しむべ
し。急卒小し。薬あくバ。人糞一規。殼許を服しむ。直小吐を
す。人糞ハよく一切の毒を解むるものあり。異菌の類。其他一切

の毒小中て。吐も瀉もあく。悶亂小奇効あり。まご青竹を切て。兩
節とごめ。廁甌の中へ三四十日没おけバ。その中小澄さる汁
を留瀝と。磁器小畜土中小埋く。聽用もまごよし。ほご藍汁効あ
る。とさけども。いまご驗む。まご養を煎。トご服しむるも効あり
とい。ゆり。さちハ河豚の毒小傷て。鬱冒とあるもの小。養を火中
小焼く。煙を口鼻へ薰る。くる法あり。鹿角菜もまご能一切の毒
を解む。劇甚小い。さりくる油を用ること。後の中毒の條小述べ
け。まご参考べし。速小其毒を解むること。残知得バ。鮑の醋毒と
いへども。死小い。さるか。どのこと。あちものあちども。いさ、
の味小耽。口腹のため小苦惱る。不孝とも至愚ともい。えん。

とあはれあといふ。予が尤憎とあろかり。

鱒鱒の性味させる毒ありともかそをさぬとも。たまく毒小中

て惱ものあるとささば。同形のうち小も。一種の毒あるものあ

まにかもえる。病者はいふまでもなし。無病のものをありとも喫

さる小をさる。

鯰魚の油膩多其質もまよ良らむ敗やま。平人といへども

喫過れば泥滯ことをお不申。況病人小與べきもの小あらば世

人乳婦と喫しむさば。よく乳を出といふも。帯下病小効あるこ

と試のへると同旨趣あるべけさど。餌食ありとも。かゝるもの

を多喫しめても。先停滞の患あり。効を得まざる如何あらん。

且子藏病の發も。乳の出さるも。其病因區別あるもの小。一槩

小此物を喫しめて治さんこと。お不つるあはれことあり。故小

用るあとあはれをまさきりとも。

鯛鱒魚も毒あり。病人決しく喫べらば。平和の人といへども。

多喫へば血を渾濁を害あり。ある人いふ。つをの軒小胡椒豆

油をのけ喫く。即死したるものまのあさり。兩人まぐみさりと

のへり。予其理を會得小いとまをけさど。物類の相感ハ不可思

議あるもの小。且言を食する人あらば。こ、小記て世小示さ。

堅魚のをもで小煮熟を歴さるものあれば。一切の病者その好小

任てよし。

叔鮪も毒あり。病人喫べらば。癩毒あるもの最く禁べし。
文鯨魚ハ俗傳小難産の婦人小黒焼小く用く効あるものとを
言ども。無益あるのまならぬ。産婦小かゝるものを與ふと却
て害あるものなり。煮て喫むるものあせども。そきもせぬ
よし。病人好こも過く食むるものあせらば。
惣て無鱗魚屬も腐敗やまじくまじく酔やまじく。こきその性の善く
らざるどころあせばなり。
比目魚ハ世醫の小くむるものあせども。さしたる害を見む。こき
小一種酔ものありといふ人あれども。いまその物を知む。唯
むしおきといふものも。病人喫小宜らば。ひらめといふも

同種屬なり。
鱈殘魚小。腸胃を順に効をいへどもかほつるなり。濕を動を害
を説もこゝろえおし。させる毒あるものといわれ。病人の
好小從てよし。
蜆ハ病人好ともまづ禁するのまじく。味噌汁小煮て黃疸の
餌小用とせども。させる益なし。小便を利むる効をいむるも謬見
あり。ある邊鄙小この殼を火小焼て極細末小く。小兒の久咳
嗽をゆるす百日咳小用とせ。家の秘方とせむるものあり。もと漢
土より出たる方小く頗効あり。も小兒久咳嗽小く下利を兼
面黃體羸たるもの小く。珥を細末して用て効あること。予の發

明メイ小コ。世ヨノイシヤ鑿シヤのいまシラと知チざるシところシあり。
文ハナグリ蛤ハナグリと痘ハナグリ兒ハナグリある家イヘ小コ入イ宿スらばといふイフは妄イフハリ言ハリあり。こシは小コ限リ
はシむべクの介カヒルキ屬キと。長ナガ病人ビヤクジンの食クワ小コ宜ヨシらさるハ。こシ、小コいふマ
るハもあらハば。

鰻アハヒ魚イシの毒ドクあるシのコ小コあラ福フクと。胃ヨウキハラ弱ジヤクのシ物モノも喫クことシを好ヨクば。世
人コノ此コノ物モノ眼メを明アキラカ小コとイふハ非アヒマシり。殼カラと石セキ決ケツ明メイと名ナるハ物モノのコ小コ其
能ノリをいハへシも。さらニ小コ驗ケンあり。況マシテニク肉ニクと殼カラとカ功カウ用ヨウ同ドウらハば。決ケツ
て無ム用ヨウのシ事コトあり。串クシ鰻アハヒ。收カス糟ソウ鰻アハヒ肉ニク。ふクだメの類ルシも。長ナガ病ビヤク不フ食シヨクの
もの喫クてもつトも宜ヨシらハば。海ウミ膽タン醬シヤウよく湯ユ火カ傷ケドを治チさるハ小コ即ソク効カウあり。速スイ小コ貼ツクてハよクがたキ

ものも。湯ユ小コも水スイ小コても解トキてつクべシ。
松マツ魚イシの生ナマあるシものも。味アヂヒ輕カワ淡タン病人ビヤクジン喫ク小コ尤モトモトよク。もシその物モノをシ
こシきハ。鹽シホ藏ビキのものもはシ用ヨウべシ。血チを運ウツ毒ドクを排オシダし。膿クミと釀カモ
内ウチ托アゲの効カウ尤モトモト優スベシなり。世ヨノイシヤ鑿シヤや、もシをシばシこの物モノを喫クことシを禁イハハ
可アハレヒキ怪キあり。我ワガク邦クニ調チ血ケツの劑クスリ小コ往ムカシ昔キこの物モノをシ用ヨウさシりシとシよ。
決ケツして毒ドクあるシもの小コあラば。多オホクク喫クて瘡ズキモを發イダスハ。こシは此コノ物モノの効カウ
色シキを必カナラシ懼オソるハこと小コあラば。身ミ小コ毒ドクをシばシものも。いハふハと喫クとも
瘡ズキモを發イダスことあり。故ユエ小コ肥ヒ前ゼン。微ウチ毒ドクの内ウチ小コ伏フシ諸オホク疾シヤク患ヅヒをシ爲ナスもの。日
々シヅカ小コ喫クるハ甚ハナタ良ヨシ。痘ハナグリ瘡ズキモを患ウレフ兒コ小コ與クセて尤モトモト其ソノ益エキあり。子チ小コ乳ニヤウを與アタる
母ハハ及トク乳ニヤウ媪バウ常ツネニ小コ食クフべシ。いハうハあるハ病人ビヤクジン小コ與アタるハもいハさハるハ害ガイある

と見ざることなり。

鮓魚シホモノヒモノの類ルも病人ヨロシの宜ウツき魚ウツありとも先マツの喫クセさるがよし。

鶏ニトリも血脈チノミヤリと資タスクカク内伏毒レタルドクを排オヒダし膿クニと釀カモス効ありといへども粘痰ネンケ宿

飲イシある病者イシも此物イシをとれ諸鳥肉イシノトリルとも小將息ヨウシヤあるべしと

なり。

鶏卵タマゴも其効ツク亦ニク肉ニク小かゝり咽頭腫痛ノンドハレイタミて粒食ゴクルの降トホリたき小此

物を生シヤクのま、小豆油シヤウユをこし加調サレて喫フスしむべし。おもひの外

小よく下降トホレものあり。その鯉オウゴンと惡キラもの小霜糖サメクをくへ熱湯アツキユ

に和トヒて用コツヒべし。咽痺コツヒ小生シヤクのシヤクよろし也。日ヨシ小數技ヨシを喫クハし

むるときも命イシチを保タシ小足タシり。そのあひチ小治ホトスを施ホトスべきあり。又痘ウダ

瘡ウダある家イ小この物を禁イムといふものあり。尤モトトモ不可解コトあり。痘

瘡ウダの内托オヒダシ小餌ケツ小常ツマ小効カクあるを見る。決クツし禁イムをき小あらは

ま湯煮ユデたるものも病人ウダ多喫ツマべらば泥滯ツカエやときものあ

バ也。ほ湯火傷ハヤド小用ユデ鶏卵油タマゴノアブラも湯煮ユデたる卵タマゴの黄キをキを復タシ

土焔ドナヒ小漫火トロヒ小炒イシべ。漸シダシ小油出アブラるを取蓄トリノケて聽用ウカフ小いウカフつウカフ効

あるものあり。

野鴨カモの毒ドク小滋養チヤウマスの効カクあり。痘瘡ハツウダの内托オヒダシ小もま湯煮ユデ用ユデべし。皮カバと

骨ホネの病人ホネ決クツし喫クツべらば多煮汁ニシユのニシユがよし。鴈ガンも鳧カモ小類ル

して其力劣ソノチカ里オシ。

鷄雉キジハ内托オヒダシの効カク優スベたれども毒ドクをき小あらはオシ。病ヤク小よりて將ヨク

息あるべし。

鶉も。小鳥のうち小の餌食ふもちひくよろしにものあり。

葡萄梨林檎の類熱ある病者このまへ。斟酌しと與ふ。必害ある

ことなし。そのうち葡萄もつともよし。

黄橙。蜜柑の類熱を解し渴をやむる小効あり。皮尤優。

霜杖。義柿効用かふ。この物小蛇の毒を解する効あり。近ごろ

ある家の庭小蛇の出るを捉る戯小吞ま杯をしたるもの

ありし。誤るまこと小吞さりとやくをるうち腹大痛悶

亂れんと死んとき。衆整集會て吐下をへき劑を頻小用る小。

苦痛まをく劇く。醫士も伎窮束手しを。後小到し一盤此物の蛇

小咬きたる小貼て効あるを知て。試小煎して内服しぬたる小。

其痛忽小治さりとぞ。予いまと試験あけきとぞも。志をらく此小

記て世小告あり。まと呪逆を治する効あり。この物特蒂を用る

小のぎらばと知べし。

西瓜も。渴ある病人小與てよし。世小この物を喫て吐瀉あるも

のを見る小。皆過食ゆゑなり。たえと毒あるもの小あら杯ハ。節

喫る害あるをきとむ。ゆゑ小大熱渴あるもの。好む微づ、與て

禁ことあられ。と下利あるもの小將息あるべし。小便不利

渴あるものもまと喫てよし。

油麻ハ。病人喫て害ありしと見れば、もをを整人のことを

禁むるもこゝろえび。病人の嗜好小任くよし。はこ此物小精を
益髪を烏毛といふものあり。こま大ある左過あり。こえくこの
効のあるもの小あらば。決くそまらの説小惑べあらばま
た油も生小く用るこも大小異ある。病人小おいて尤禁む
るこころ小あまといへども。油と薬と反ありといふも。こま傳
習の謬見あり。まべく油も喫て時を過ぎともあらず胃の上口小
ありく下降たきこころ。水小混さる油の上面小浮て。その水
を傾瀉ても油も器の邊小残るごとし。且其粘滑ある由も小腹
中の機ありくあり。留飲あとも尤妨とあることあり。薬と
相反の故小禁小あらば。さまいへ油の性質ハ一切の薬毒を

圍繞て其力を挫くものある。反といふ理のあら小もあらば。
世人ちかゝる理を辨知ていふ小あらば。志をらくこまを驚
をなり。ましく喫て泥滯を知ぬものも。病ありとも少く與てあ
こいふ小あらば。又今世小發疱膏を糲て貼るこころ小水
疱を起ものあり。此膏を貼る後小。小便淋瀝陰莖中小痛を知る
者あり。速小油煮やうの物を食ハ其痛治るあり。このこと小保
て記得べし。まこ龍腦一味細末小く服るもよし。
菘も煮熟をれを軟小く。胃弱下利の病者ありとも。嗜好もの
小ハ與て害あるもの小あらば。たゞ留飲家及面色黧淡唇白者
等ハ惣て菜蔬の類を多喫ハ宜あらむ。然を世整るその科別も

かく一切の病者小菘を禁むるあと嚴ハ全その理ありことあり。唯鹽藏の物を消化宜らば。羸弱病者多喫むべからば。世人いふ菘を喫て兒小乳を嘔しむる。兒の大便秘といへば。是蠢愚なる裁量あり。兒の大便秘の青色。病ある小あらば其母の乳媪小必故あることなり。菘の青色の乳より轉輸て大便小出るもの小あらば。若然らん小赤色の物を喫バ赤大便を泄白色の物を白大便とあらん。甚失笑べきこと小こと。白菘子も腸胃の運輸を資留飲を疎。飲食を消化。食滯を治む。傷寒の精神錯亂譫語ありて。諸藥効なきもの小。この物一味細末小したるを煎服せしめ。驗あることあり。痲病小も用べし。手

小不遂不仁ところあるものも。此物を布小裹沸湯小撮て肩よ。至身柱の部を慰。脚小あるものも腰を慰て効あることあり。は。平素小頭熱脚冷るもの小。嚴醋小て衿り足心へ貼てよし。餌食小毎朝味噌汁小點々用べし。焯菜ハ腸胃の轉輸を健小し。腹痛を治し。鬱胃を開の効あり。一切の病者禁ところあり。帶下諸病鬱悒諸症。痲病。惣て胃弱者常小餌小しよし。生薑も一切禁ところなし。胃弱病者かよび胸膈痞塞。或も留飲あるものことさら小喫てよし。嘔氣小尤効あり。煎劑小生薑一片といふも。や、大なるところ小。厚一分をり度をとさべ

麤皮を去たるをよし。因ツイデ小いふ。凡ステく薬を煎センむる小磁器セトモノを
上ヨシと以コト薬を布囊フクロ小盛イシべそのまゝ、小投イシするをよし。其味アザヒを主センと
する劑クネリを濃煎コクセンをよしとす。芬芳カホリあるものを濃煎コクセンをこのまじと
先知得マツコトくよし。も一香氣ニホヒあるものを煎センむるからハ。確クワシの滴口クナを
も紙やうのものを代カ以コトく之を塞フサキ。その氣キの泄モレぬやう小を煎センむる
也。
葱ネギも病者小禁イムところあり。疝瘕センキ腰痛ハライタシその他下劑ゲイを服ノミて便下フラスべ
き小下ツクシの補腹ハラ中急痛支悶キククイタシムチツクエ。まゝも痛肝門イタミカウモン小徹トホて堪タへたきかど
小。白きところを掌アノヒ小くよく揉モミむとこ一づ、鹽シホを和クハくよく軟小ヤラク
し。瓷焔ドナヘ小く温め。布ヌ小裹ツミく慰ムシするかと尤捷便モツモツチ小くも効カウ

あり。顛撲ウナミの腫痛ハレイタシ小も用ヒく慰ムシてよし。
菜腹ダイコンも一切の病者禁イムところあり。煮ニするもの尤モツモよし。生シヤウもま
あしあらば。沙菜腹ダイコンオロシも用ヒく害ガイあらば。頗傳化ヨホトコナレの機グアヒを資タスル小益エキあり。
この物を葱白ネギノシロコ小交マゼく慰劑ムシダスリ小用ヒることあり。澤菴タクアンづけ。批淹ヌカミツツケの類ルキ
も。病者好コホマハ與アヒてよし。たゞ莖葉クキハの鹽藏シホヅケもこのまじあらば。
竹筍タケノコも毒ドクあるもの小あらば。補コナレと消化コナレあり。たゞものかまハ怯弱泄ヨウキモクシ
利等リナドの病者小禁イムことあるまじあり。
菠薐菜ハカレンサウも毒ドクあるもの小あらば。志シあるを婦人齒フウジンハを漆シてこまを
喫クハ。毒小中ドクく死ぬるといふも。鉤吻コウフン和名ワナをわりといふも。この
の相似ニヨリたるまじより。偶小タラシを此らの類ルキを誤認アママリ喫クく毒小傷ドク一者ヒト

あるあらん。はる芹葉の鈎吻ありて。せりと相似り。和名お
海ぜりといふ。池或る澤小生む。こまま毒あり。よくく辨知を
し。
大蒜灸を瘡癰の膿を呼小用る。火氣の内小徹く痛を知らぬ
ら祢を効あきものあり。

芋の類を毒あるもの小あら祢ども。痰涎留飲の病者小喫しめ
ざるをよしといふ。青芋尤善のらび。薯蕷の精を益といふも妄也。
とべくところ、とるる。長病人をいふまでもあらび。つ祢小宿飲
舊癖あるものこまを喫へま、停滞ことあるものあり。
蒟蒻ハ性質のよらぬものなきハ病者の喫小宜のら祢と。微

少與くも害あることあり。世人癩癩小禁といふも真小然り。痘
瘡せざる小兒小喫しむべのらびといふも證もなき妄言也。幼
より喫熟ても害あるを見たることあり。まゝ此物を湯煮乗熱
手巾小裹病痕腹痛及腰痛等を慰てま、効あることあまハ時
小臨く用べし。

茄のよく煮たるも。病者の好小任く決く害あることなり。婦
人食ハ子藏を傷といふも妄言なり。あきあきを眼を損むとい
ふも謬見也。たゞ鹽藏久きを歴ざるものも。痰飲を激動ことある
の故小。將息あるべきことなり。
牛旁ハよく瘡癰の膿を釀毒を内托く。小便を利むる効あり。痘

瘡兒サカコ小熟煮ヨクニく喫クヒめくよし。その實ミを惡實アクビツといふ。痘瘡ハカサウの眼メ小入コドモたる小兒ヒヨメキの顛門ウミスヒカウチへ呼膿膏マセハリ小和貼ヨクソノドクて。能其毒ミセヒクを導ミセヒクゆゑ小輕症カロキヒヨウ小用コトモべし。

沙糖サタウを用ヨシラて製コレラたるものも。病者コノミの嗜好マカセ小妾マカセて與ユラフること禁イムべき小コあら祢クヒスキど。とべく喫過ナツムくも。泥滯ナツム害ガイのカキ小コあら祢クヒスキハ。其ソノ酢サ酌リクをべたことなり。藥ヤクと相サシアラフ反イタリといふをイタリと譏イタリふるあはれと。此物コノモノ小コもまマと解毒ゲドクの効カウあはれと。あはれいひつとへたる小コもある。故ユエ小コ鯛鱈魚カヅラ金鎗魚マガグロあとの毒ドク小中コナカて。面熱頭痛カホカキツツウをカキるあはれと。糖霜サタウ水ミヅを用ヨシラること。世人セニの知シルところ小コも、ま、効カウあることあり。煙草タバコも毒ドクあき小コあらむといへとも。常喫ノミナシたるものも。病ヤメありと

て禁キンむる小コ及オヨビむ。た、喘咳タンヒキ劇ハゲレきものちや、將息ヨウシヤをべし。又溺死オホレシたるもの小コ烟草タバコの煙ケフリを肛門カウモンより多噴フキイレ入イレて治チむることを聞キケむ。予コノもいまと試験コトシたることなり。も、こは流行オコナんとあはれハ。性キナ烈品ワヨキヒナを大頭許ヒサランオホイある煙筒キセル二挺フキ小實フキて火ヒを點チす。一ヒツの喩スヒクキ口カウを肛門カウモンへ挾サシコ一ヒツを口フクミ小合ヒザラて。火頭アハセイキを相會アハセイキ息フクミをきいめくたびく吹入フキ入イレ。尤水モトモを志シす、の吐ハカせく後行ノチオチラフへたあともあり。こは予オモヒツキの創意オモヒツキの便法シカメ也。

茶チヤの病者ヤメヒ小害サイあるをチヤとび。熱ネツある疾傷寒ヤマヒ時疫ジエキあとも小コもことさ。小コ與ユてよし。痘疹ハツサウ小コも尤効モトモカウあり。初發シヨハツより灌膿ホネウミのあひと。上品シヨウキの茶チヤを濃煎コクセントく喫クヒしめくいつも其効ヒを知ヒる。婦人メナの癥瘕シヤウキ子藏チノミ

病小も用てよ。此物人々喫きたりて。腸胃小慣熟したるもの
あまハ。病者好ハ與て一切害あることあり。まゝ末茶の世小濃茶
淡茶あつと稱ものも。喫慣たるものも。病あまどく必禁ところ小
あらび却て腸胃の機轉を資の益あり。志の世ども頭部の鬱塞
を開達との速あるものあまハ。眠を礙るところその人の質小由
てあることあまども。それを以て茶の害こといひおさかるべし。
此物曼陀羅花阿片あとの毒小中。沈睡覺たれもの。及子藏
病癩症あつと小く。沈睡を發したるあまど小用べし。世人いふ藥を
服その茗を用てハ効あり。土茯苓の類も藥汁とて水とあら
しむといふ。こま大なる妄言あり。予恒小病者小此物を禁さま

どもたえく藥の効あまを見び。右小いふところの病者の不
眼。耳。鼻。舌。上部の病あるもの。癩毒諸患。眩運。昏冒。頭痛。肩項強を
ど小く。必上好品を喫てをゆるし。効あることを知里。この物
小解毒の能ありといふふよりて。藥の効を妨るといふ小もあ
らん。いづれ小も拘るところ小あらびと心得べし。
惣て熱あり。湯茶あつと嗜病人小も。必度を過さぬやう小時々
與く尤よ。そまら自然作用力の飲液を得。病を解さる。あつ
を欲するあまハ。必こまを禁むることあまれ。婢僕あとの病あ
まて渴あるもの小も。必その同僚小命。求る小從與しむべし。
熱飲を欲を熱劑相應の證と。醫書小いひつゝふまども。今病者

小驗コケン必カナラしも然シカむ。ときらの説セツを的テの小コくも。治術シヨウジツを過失シヨクシツとま
まあるものあり。

熱劇ネツゲク大渴ダイカクあるもの。その好小コミゆるせく冷水レイスイを與ユく病ヤミを治ヂむる
ことあり。決ケツし禁イムべき小コあらば。後の傷寒シヤウカンの條ジョウ小具コク梗槩キョウキを述
べけむ。熟讀ジュク考カウべし。其他水ホカの効用カウノウサマク多端タタンあるも。近チカむのを
一イチ二ニ舉アゲく其例レイを示シべし。齶齒痛ハレバクイタイ歳トシを経て治チるもの。朝起アサオキ
の漱口ウカイより朝夕レヨクの食シ草ソウいさ、この齧子クワレ染餅モノキモノ果實クワシを喫クモむと
元イも寢イんととむるとき。廁セツより出イたるときも。癖クセありたるやう
小水コスイして口クハを漱ソクく。一切湯イチケツを用ヨウることなく。平素止ヘイセイシとをけむ。
その痛漸イタクシヤク小瘡コソウく。多年ナンネンの宿患ヤクオンを除ノクべし。まゝ鬱毒ウツドク及留飲リウインあるとあ

常小飲食ジョウコウシキを後ノチごと必カナラ端坐タンザして先口センクハを開腹カイフク中の氣キを呼ヨぶ數遍スウヘンふく口クハを閉トめて両手リョウテを
相摩アイマして熱ネツせしめ。額上ニクジョウより兩頰リョウケン下及左右ゲイサウの脛シネと摩マ擦サツを數遍スウヘン心シン輕ケイをべし。其次コノチ小具コク兩手リョウテ相並アイナリて左右
の胸脇キョウキョウより小腹コウブクに至いたるまで。徐々シユシヤと撫摩フマを十數遍ジュスウヘンこも。面部メンブウを摩マるよりも力チカラを用ヨウべし。其後
兩大指リョウダイシを以もつて足心ソクシン涌泉ユウゼン穴アツと力チカラを極キョクて摩マ擦サツを左右サウヤウ各ノノ五七十遍ゴジュウシチヘン小具コク止ト。此法ココノチ飲食シキ後ノチ心シン下ゲ膨悶フウモン腹
氣キ停滯テイテイをかへえ。或シハ身體シニ沈重シニ睡眠シュイミを催メカるとあるもの。小月コグツを累年レイネンと積ツキて行イり。藥ヤク小優コユウる効
有アり。或シハ、症シヤクあるもの。常小施ジョウコウシて止トむと。飲食シキの消化シヤウホウを資滯シシ食留シキリウ飲インの患オンを除ノクふ。瀉益シャイキあ
り。熱按ネツアツむる。古人コノコの宿食ヤクシキと雜病ザツビョウの先マと為ナると云イふ。いさる。こ小具コク、惣ソウの病ヤクも口腹クハフクの欲ヨクを節セせさる
より發ハツもの。十小ジュコウして八九ハチクかむ。古聖人コセイジンの食飽シキホとを求モトむこと
か。元イも、ひこり志シ處トコロあり。其暇シユマか。元イも、非ヒを先マひも
いへる。如スく。飲食シキを戒イハる。こりもか。元イも、格物キヤクブツ致チ
知チの大本ダイホン小具コク、身體シニの壯健ソウケンある。非ヒバ。道ミチを得エ
る。こ。故コトなく。士農工商シノウコウカウ各ノノの職シヨクを成就シヤウジユウする。こ。能ノさ
る。故コトなく。且ナ飲食シキ自倍ジヘイを。腸胃チヤウイ乃ナ傷キさ
る。古人コノコも戒イハた。且ナ惣ソウて飲食シキハ必カナラ六七分ヒツロクシチブンと
定サむ。こ。貝カイ乃ナ加餐カカン菜食サイシキ美ミ于ニ珍味チンミ。然シカら
後ノチ臥草フシクサ。勝初シヤウシツ。重オモシ。古コノの君子クニノコノハ蔬食シキも飽ホま
で。小せむ。こ。いへ。は。美ミ味ミ醇酒ジュンシウを肆シ小
身ミを忘ワスレて。の。で。年ネンを折家セツカを破ヤす。の。あ。ら。ざる。空カラき。故コト小
か。、。項キョウ未ミある。導引ドウインも。こ。を。こ。の。醫イの。一イチ科カ小具コク。べ。き。の。を。あ。ら。ば。
ま。修シユ身シニ齊家シヤカの一イチ助シュも。あ。る。べ。元イ。歎タツ。こ。の。く。諱シ。を。さ。る。ふ。ど。あ。り。け。る。



まろ。涎唾粘稠。口氣常小臭。舌糜爛。齒齦をりく腫。あるひ
も膿を出すとあるもの、おときもまゝ此法小從く怠ことあ
けとバ。其病原を平治と小ハあら補どもかゝる惱も必愈こと
を得べし。まゝ惣く平常熱物を嗜喫ものゝや、もささハ口病
を發しやとく。牙齒の損むるともやきものあり。これ又預く
意得べし。

讀書小耽。伎巧を業とし。とべく眼力を勞ものゝ。毎夜寢ときと
朝起たること久小。眼の上下の眶と内外眥の内の液を冷水小て
よくく洩去。刺螫もの無小いたるまゝ。かくして怠されバ。眼の
疲勞とくおれたものあり。

産後の眩暈小。冷水の奇効あること坐婆必研小くハ。其説を
記たさども。今此編婦人須知の巻小ハ。これを述べ俗家小示
べし。其他熱病の危篤證小。灌水得効ある辨。痘疹。驚癇。及癇疾癩
癩。狂癩諸症。痲痺諸患。又と瘦狗傷てより。精神錯亂もの。或と頭
熱經久止さる。或と惡寒歳を累く愈む。或ハ久瘡諸治効を久類
及癩病初發癩瘡初起小。灌水。浴水。拊水。及瀑布泉を用る差別。其
佗の諸病小。冷水内服辨別と。予が多年の試験も。皆治術のう
へのと小く。鑿も其人小あらささハ。妄小説論おたく。况俗家の
理解難こと多けさハ。此小具論せざるあり。

穀肉果菜の性質小。寒熱温涼といふことおき小あら補と。炙

飪たるものを温暖あるま、小喫するも、その火氣をその中
會有たさば。平素喫慣るる飲食のうへ小おいろ。あをち小を
の寒熱温涼を論ず。ふらく愛憎の意を起すべきこと小あらば且
世小いひつたへ書小記する類も皆守杭説多く。實の据とを
難ことのもなり。藥の性効小至るもまた然俗人も熱あはば寒
くよきものとかもひ。冷るをば温ねはあらぬこと、記得さ
ども。療治鑿藥のこと。さやうの俗見小くやくその小あらば。
熱あるものをあ不温寒ものを益涼く利ものも常小あるこ
となり。然を藥も如何ある故小効あるものとも知。附子とい
へば温るものとかもひ。石膏ときけば寒こと、臆度もあまり

小愚昧あること也。凡俗の了解しおたきことなから。今此小其
大要を畧しういたす。惣てことさ寒さ熱とさ温あさ
冷と差別使用ところの物の性といふも生活體の一元氣の運
動機と相會て後初と見ところ小く。其性小由効をも害をも
爲ものあさば。炙飪より煎烹の火製をふる小從る性の變化も
のもまた多。又物の相會る性効を見といふこと試喩ん小。其性
熱ありとるいへと自焰を發し燃ふもあらば寒あさばとて
氷て碎たるためもなり。ゆゑ小熱劑も所使小由る寒とも
あるべく。寒藥あ望とも又熱を發張本ともあさば。た。理小を
のり繫縛らさるゆるぬものといへば。繫らさぬやう小

て縛らざるの。理の外を出ぬ活手段あり。然在中古醫學の世小
廢たたる頃小。石膏をとを手小握くその冷やのあるをみる。木
寒薬を定くた。寒をもものとのと思へる。假令氷や雪を寒と
識湯小沸を熱といふごとく。夫を其體小つきくいふまでの
こと小く。其性を論むといふをらび。全物の條理をも窮知
ことあはより。妄小の、る差謬を言出ささくあり。さへく世間
小薬の寒熱温涼を談こと皆この類小く明あらび。醫學も多途
小く規則定おしけさ。幼より白首ま。汗牛の書籍小眼を
さら。諸師小從學。衆病を施治。且其道小爽利小くも。あ不實
小知得たるもの少き薬の性効と病の所由を庸俗のいさく。

辨得らるるをき。冥々之中小限る命數あさ。必治法も一定あら
ん。故小こやあくいとんよりも。病のあをハ一切醫師小任て。
俗人の愚癡ある裁量もいとぬとよき。病家もた。一途小信用
する心を先こ。醫者も誠實もつをら小く。他人の病を自己
の身小荷負をさ。小心を潜を。絶伎小あらびとも大のこの病
を治を起き道理あり。こあく小醫者も輸寫小から祿ハ。病者の
爲小損あるおと小く。たとへ巧手ありとも病家小疑念を懷多
慮を見さ。かもふやう小手も下ささぬものあり。ま。庸工
をや。世の諺小い。こ。のあたまも信心おらと。其意味の醫者
のうへ小もあること小く。正氣散龍王湯の泡薬も應とおもへ

ハ得利イッポトあり。申コト意イ小コ同病トウヒョウ小同劑トウジを與タズくも。病家ヒョウカと醫者イシヤと之ノ相投サウダウ
 せ杯ハバ。効キコトあるべきも驗ケンあることあり。こそらの旨趣メシを淺近アソビか
 るやうなまども真小マコト其理義ウケを會得エトクせん人も稀マレあるをの小コく。
 どのく小我意ガコイといふものノ妨礙シヤマしてハ。實際マコトノチを明アめらさ杯ハ。
バツク速胸クハシの中の茅塞フソガリをよく開ヒラキく。平心テイシン小聽受キキイルんことを庶幾コトヒキカフのミ

病家須知卷之二終

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 病家、須知、卷之二、終）

